

「安心して行きなさい」

西田直樹

5月の聖句はマルコによる福音書5章34節です。「イエスは言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気に罹らず、元気に暮らさなさい。』」

仏教では4苦と言って生老病死を挙げています。その中での病気の苦しみは並大抵ではありません。この聖書の箇所に出ています一人の女性は12年間も不正出血で苦しんでいました。「多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。」

治る見込みのない病気であるだけでなく、治療費に充た全財産は底を突き、また「穢れた者」として一般社会から排除され続けてきたのです。この女性の窮乏は深刻でした。

彼女がふと耳にした「病気を癒しているイエスがこの村にもやって来た」とのニュースに胸をときめかせ、イエスのもとに駆けつけたのでした。しかし群衆の厚い壁は彼女の行くてを阻むのでした。イエスに一目でもお目にかかって優しい声を掛けてもらえば慰めにもなるかと思ったのでしょう。それさえ適わない状況に彼女は群衆に紛れ込んで後ろからイエスの衣に触れたのです。その必死さ、一心さ、まさに藁にもすがる思いだったのでしょう。「すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを身体に感じた」のです。

しかし突然イエスが振り返り、また辺りを見回して誰が服に触れたのかと問い詰められたのです。彼女は震えながら進み出て、ひれ伏し、名乗り出て事情を説明をしたのでした。それに対してイエスは彼女を咎めることなく、「安心して行きなさい」と言ってくださいました。

* * * * *

さて3週間の幼稚園生活を体験した子どもたちの中には朝まだ必死でお母さんの後ろ姿を追い求めている方がおられます。涙を一杯流してお母さん呼び求めています。声をあげず必死に堪えているお子さんもおられます。そんな子どもたちに「安心して行きなさい」とイエス様は言ってくださっています。不安・寂しさ・悲しさに全身が震えているのです。そうしたお子さんを教師たちは優しく抱きかかえ、「大丈夫だよ」「楽しいよ」と声を掛けています。そのうち元気よく幼稚園に飛び込んでくる日が必ずまいります。「安心して行きなさい」と送り出してください。